

眠りたいのに眠れない。

中途半端に閉じたカーテンの隙間から

白んでいく空が見える。

もうすぐ職場に向かわなければ。

そういえばこれからジムに行こうと思っていたんだ、体を鍛えたいんだ。

それからその男の息子は散歩に出た。

晴れた日に知らない住宅地を歩くのが日課なのだった。

歩きながら自分が巨人になった妄想をするのだ。

巨大な手で、他人の家の屋根をはがし、壁を崩し

住人を外へと追い出す。薄暗い部屋に日の光を当てる。

日の光には人の頭をぼーっとさせ、記憶を奪う効力があつて

それですべての人が家族のことや、友達のことや、自分のことを忘れるんだ。

そして一緒に散歩するんだ、晴れた日の廃墟を。

結局眠れなかった僕は身支度を整えると、

人と会う予定のため美容院に行く。

高い金を払ってストレートパーマをかけ、眉も整えてもらう。

美容師に、手大丈夫ですかと尋ねられ、腱鞘炎なんですと答える。

僕は左手に包帯を巻いている。

駅に向かう途中で中学生くらい女の子を見かける。

誰かに似ている気がする。

女の子はぼんやり目の前のアパートを見上げていて

すれ違うとき、私もいつか結婚するんだろうな、とこぼす。